

バンコク エカフェ事務局通信 ①

沢田 秀穂

エカフェというのはインスタントコーヒーの一種かという人もいるが そうではない。エカフェとは国際連合アジア極東経済委員会の略称で ECAFE とかかれる。

ご承知の方も多いであろうが 国連の中にはヨーロッパ アフリカ アジア極東 ラテンアメリカ (中南米) の四つの地域経済委員会があって それぞれの地域の社会的経済的發展につとめており エカフェはそのうちのアジア極東地域の委員会である。極東という字がつけ加っているのは 今の日本人にとっては少々奇異の感があるが 大体はアジア全域のと考えていい。もっとも近年オーストラリア ニューゼaland 西サモアの三国が加盟したので 区域はオセアニア (大洋州) にまでひろがった訳である。インドネシアは一時脱退したが最近また復帰したから西はイラン 北は外蒙古 東は西サモア 南はニューゼalandに至る世界の広大な地域に存在する23の国がエカフェを構成し その事務局がタイ国の首都バンコクに現在ある。その事務局の構成をみると 事務局長室の中に 技術援助係 広報係 編集係 通訳翻訳係 儀典係といった係がある。Divisionとしては管理 経済 調査・計画 統計 水資源開発 工業・天然資源 国際貿易 運輸・通信 社会事情 農業の9つがある。各 Division の人員の構成はいろいろで

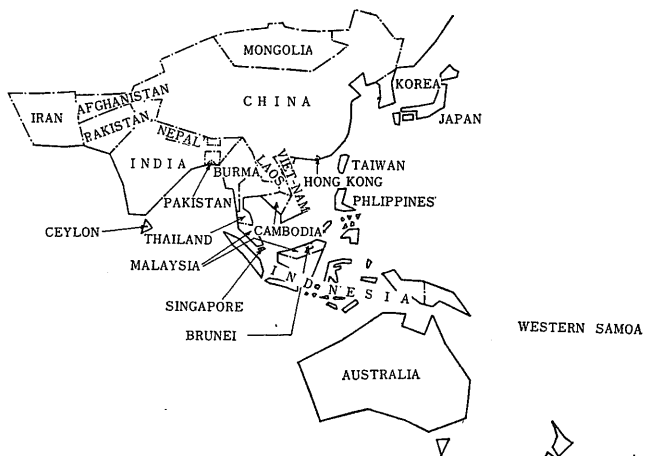
Officer (昔の日本の高等官以上にあたるともいえよう) の数でいうと それぞれ 13 16 6 6 20 3 7 6 5 であって この他に adviser consultant expert という専門家がおり その数は1967年4月15日現在 (Officer の場合も同じ) 工業天然資源 6 運輸通信 7 社会事情 1 となっている。これらの他にメコン河下流地域調査調整委員会の事務局とアジアハイウェイ運輸技術局とアジア経済開発計画研修所とがあつて 外局のような形になっている。

さて筆者の所属する Mineral Resources Development Section というのは上記の工業天然資源 Division の中にある。この Division は上に記したように人員の上からは エカフェ事務局中最大の Division であるが その中の Section の数も多く 工業調査 電力 鉱物資源開発 金属・機械 小規模工業 住宅・建築・計画の6つの Section がある。

鉱物資源開発 Section は67年8月末現在で 長はオーストラリア人の石油地質技師 L. Stach 氏 スタッフとしてビルマ地質調査所の前次長 Dr. Philip Kyaw Mynt ソ連地質省から派遣された地質技師 Y. Kazmin 氏 シナの広東大学を出て 香港の馬鞍山鉄山につとめたことのある シナ地質技師 W. P. Lee氏および筆者がおり この他 工業天然資源 Division の次長は 最近までこのSectionの長を兼務し エカフェの地質鉱産関係の仕事の育ての親ともいふべき Dr. C. Y. Li であり またフィリピン鉱山局の首席地質技師であった N. S. Fernandez氏がDr. Liのよい助力者となっている。また昨年設けられたアジア沿海鉱物資源合同調査調整委員会の事務局はこのSectionのofficeの中にあり 西ドイツ フランスから派遣された専門家の事務局員とともに 日本政府の費用で派遣された地質調査所の佐野課長がそのスタッフとなっている。

このアジア沿海鉱物資源の調査については これまで度々本誌上にも紹介されているが 第1回の会合はフィリピンのマニラ郊外のケソンで昨年5~6月に行なわれ その報告書は日本政府により地質調査所の手で印刷された。第2回の会合は同じく昨年10~11月東京で行なわれ その報告書は台湾の Chinese Petroleum Corporation によって印刷されている。第3回の会議は本年6~7月韓国の首都 Seoul で行なわれ その報告書は同地で印刷中であり 第4回の会議は台北で 本年11月に行なわれた。

エカフェの主催する会合で もう一つ今年中に行なわれる予定のものに アジアの肥料工業鉱物



ECAFE 地域各国分布図

原料資源セミナーがある。これは本年12月4日から11日までバンコクで行なわれる予定で食糧事情がひどく悪化した地域—たとえばインド—のあるアジアでは非常に重要な会合と考えられている。

昨年4月 エカフェの総会は決議として エカフェ事務局に対し FAO と協力して 化学肥料原料の需要と供給とを調査するように求め これをうけて同年8月 エカフェの鉱物資源開発小委員会は エカフェ事務局に肥料原料鉱物資源に関するセミナーを組織することを要求した。さらに本年3月 エカフェの工業天然資源委員会は 鉱物資源開発の諸計画中のセミナーの実施を最優先とし 本年後半にセミナーを行なうように求め その会議の席上アジアの各国代表はこのセミナーに対し大いに興味を示している。さらに本年4月東京で行なわれたエカフェの総会でも 事務局の作業中最優先すべきであるということになった。さてこのように重要視されているセミナーの準備は着々進められていて すでに出席を考えている国々は本年8月末でオーストラリア 台湾 インドネシア フィリピン インド マレーシア ラオス イランなどがある。これらの国々の中には はっきり出席をきめ代表の名前を示してきたものまである。

セミナーの主眼とするところは 肥料の原料となる鉱物の現況と将来の需要を展望し 各種の肥料鉱物特に現在はそのほとんどをエカフェ地域外からの輸入に仰いでいる燐とカリの資源の調査 評価及び開発に用いる方法と技術とを論じて 将来の計画に対ししっかりした基礎を与え 肥料原料鉱物の新しい資源を発見するため将来強力に調査を行なって補わなければならないような現在の不足状態に光をあてようというものである。さらに考えられることは このセミナーを開催することによってアジア各国の当局者の興味をよびおこし 肥料鉱物の稼行可能な鉱床の発見に導く調査を実施しうる技術的能力を強化する結果となるだろうというわけである。

現在このセミナーに予定されている議題としては エカフェ地域各国の各種肥料の現在の需要と1970年 1975年および1980年における必要額の予測 エカフェ地域各国における主要肥料鉱物の現在の自給度

燐 鉱石について

- (a) 燐鉱床の現在の分布 地質環境および分類
- (b) 各種の近代的方法・技術の調査への応用
- (c) 調査および予備開発の実例報告
- (d) 沿海含燐堆積物

カリについて

- (a) カリ鉱床の現在の分布と地質環境
- (b) 各種の近代的方法・技術の調査への応用

硫 黄 について

- (a) 硫黄鉱床の地質
- (b) 近代的方法・技術の調査への応用

その他の肥料原料鉱物 調査技術と主要肥料鉱物資源開発とにおけるエカフェ地域各国間の協力と援助との予想 肥料工業用鉱物原料の開発における国際連合の活動の展望とエカフェ事務局の行なうべき作業となっている。

こうした色々の会合を開くほかにエカフェの仕事の中には種々の出版物の発行があり 地質関係の諸地図の編集・刊行もその一つである。すでにエカフェ地域の地質図 石油天然ガス地図 鉱物分布図が出されていて いずれも縮尺は5百万分の1である。

地質図は1959年に発行され説明書がついておりイランは含まれていない。大きさは6枚1組のものをつなぐと1.85×1.80mとなり多色刷で 価格は15米ドルでこれには陸送料金と包装費が含まれている。編集はインド地質調査所長が主任となり インド測量局が印刷した。すでに発行以来8年たっていて その後新しく加った資料を使い改版の準備が進められている。

石油天然ガス地図は1962年の発行でイランを含み説明書はない。鉱床 生産の所在 大きさ 調査開発の場所が示され 石油 天然ガスの他アスファルト 油母頁岩について記され また製油所 送油 ガス管の位置も記入してある。その他 これには鉱物燃料の可能性に関連して 地質構造 地層も示されている。編集主任は当初英領ボルネオの地質調査所長であった故 Roe 博士でオランダで印刷された。大きさは4枚1組のものをつなぐと 2.10×1.50mとなり多色刷である。価格は送料 包装料とも12.50米ドル。

三番目の鉱物分布図は 鉱物産地を記号で示し 鉱量とか調査・開発の位置とかは示されていない。地質の記入がある。発行は1963年で イランを含み 説明書つきで多色刷。編集は日本とインドの地質調査所長が共同で主任となり 印刷は日本で行なわれた。大きさは4枚1組を合わせると2.00×1.50mになる。価格は送料 包装料こみで12.50米ドル。

この他に現在編集の進行中のものに前マラヤ地質調査所長の担当する構造地質図 日本の地質調査所長担当の鉱床生成図があり 水理地質図の作成については検討中で 重力図は日本とインドが共同編集責任者となって準備が進められている。なお上記既出版の三地図は直接下記から求められる他 日本では丸善をとおして注文することができるかと思われる：—

Document Distribution Unit
ECAFE Secretariat
Bangkok, Thailand

(筆者は 元所員 現在バンコク エカフェ事務局)